

金子千保と音楽の仲間たち ソプラノ&ピアノコンサート

Fearless

- 扉をひらいて -

R. シュトラウス 「四つの最後の歌」

G. フォーレ

「レクイエム」Op.48より「Pie Jesu」

F. リスト

「ラ・カンパネラ」S.141、「ため息」S.144

A. スクリャーピン

「左手のためのノクターン」Op.9-2

A. ドヴォルジャーク

「ユモレスク」Op.101-7 ほか

(C) Chiho Kaneko

2024年 **8月31日** (土)

開場 14:30 / 開演 15:00

岩手県公会堂 21号室 岩手県盛岡市内丸 11-2

全席自由
定員 100席

前売り 1,000円 (当日 1,500円)

- 高校生以下無料、席数確保のため事前にメールで人数をお知らせください。
- 前売りが定員に達した場合、当日券の販売はございませんのでご了承ください。

プレイガイド: ランディア東山堂、東山堂クロステラスセンター / 楽器



公演情報 X

お問合せ / 080-5099-0021 (事務局: 新里)
fearless31au@gmail.com

主催 / 金子千保コンサート実行委員会
後援 / 岩手日報社、ユビノワ



お問合せメール

コンサートによせて

人生は旅です。年齢を重ねるほど、この「旅」には旅程はなく、目的地もないのだと気付かされます。

時には別れ道に立ち、思いがけない扉を開けることもあります。

数年前、R. シュトラウスの「四つの最後の歌」をやってみないか、というお話をいただきました。

それは、歌手として経験の浅い私にとって身に余る大曲を任されるという試練でもありましたが、

勇気を持ってこの扉を開けました。

コロナによる2度の延期を経て、去年の6月についに演奏することができました。

この大曲を全曲歌う機会はまだ二度とないだろうと思っていたところ、

盛岡でたくさんの方々の支援を得ることとなり、今回このコンサートを企画する運びとなりました。

シュトラウスが85歳で亡くなる前年に作曲した「四つの最後の歌」には、

死という未知に向かって限りなく開かれていくような不思議な空間がある気がします。

明日はどうかかわからない。

心の扉を開き、たくさんの方々に感謝しながら、今日の一步を踏みしめています。

—— 金子 千保

(C) Chihiko Kamiko



ソプラノ 金子 千保

アメリカ合衆国バーモント州在住。高校2年までピアノを故佐藤靖子氏に、高校3年では声楽の初歩を佐々木正利氏に師事。その後25年以上音楽以外の分野—絵画、翻訳、エッセイ他—toに専念。2011年にJ.S. バッハの「ミサ曲口短調」を歌ったことをきっかけに声楽を学び始める。近年は帰国の際に佐々木まり子氏の指導を仰ぐ。2023年6月R. シュトラウスの「四つの最後の歌」を地元の Upper Valley Chamber Orchestra と共演。ユビノワ会員。



ピアノ 一戸 陽子

盛岡市出身。東京音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。いちのへピアノ教室主宰。社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)正会員、ラ・ムジカ会員。ユビノワ会員。ピティナ指導者賞、ピティナ特別指導者賞、ショパン国際ピアノコンクール in Asia 指導者賞、東北青少年音楽コンクール指導者賞など連続受賞。女声合唱団「コール Tonan」の伴奏者として全日本おかあさんコーラス全国大会6回入賞。故佐藤靖子、小林出各氏に師事。



ピアノ 関 和歌子

滝沢市在住。東京音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。第11回東北青少年ピアノコンクール最優秀賞、中村紘子賞、21世紀音楽未来賞受賞。「となりのピアニスト」と称して各種コンサートを行っている。近年文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業」に派遣アーティストとして参画。柳萬まり子、故佐藤靖子、小林出各氏に師事。和の音ピアノ教室主宰。ラ・ムジカ準会員。ユビノワ会員。



ピアノ 田中 佳子

盛岡市出身。6才よりピアノを始め高校まで故佐藤靖子、小林出各氏に師事。20年以上のブランクを経て再開。第18回ショパン国際ピアノコンクール in Asia シニア部門アジア大会銀賞。他アマチュア部門で複数入賞。ユビノワ会員。小児科医。こどもの心相談医。



ピアノ 新里 真美子

盛岡市出身。フリーの編集者として働く傍ら5才から中学まで習ったピアノを2016年に再開。第10回東京国際ピアノコンクールマスターズA部門第2位。ピアノを故杉田愛子、故佐藤靖子、一戸陽子各氏に師事。ラ・ムジカ準会員。ユビノワ会員。